

平成24年度 第1回図書館協議会 議事要旨

日時：平成24年6月7日（木）18：00～19：30

場所：帯広市図書館3階会議室

■ 出席委員

今泉委員、大平委員、高倉委員、長谷部委員、山上委員、山崎委員
吉田委員

■ 事務局

吉田館長、谷尾副館長、鈴木係長

■ 傍聴者等

報道関係者1名

■ 会議次第

1. 任命状交付
2. 教育長挨拶
3. 会長、副会長の選出
4. 協議題
 - (1) 平成23年度事業報告について
 - (2) 平成24年度予算・事業報告について
 - (3) その他
5. 閉会

■ 議事要旨

・教育長より任命状交付、教育長挨拶、委員、事務局紹介 一省略一

・会長・副会長選出

事務局より、前任者の吉田会長、大平副会長を提案し、委員の了解を得て選出。

吉田会長の挨拶後、議事に入る。

(1) 平成23年度事業報告について

ー資料「平成23年度 帯広市図書館管理運営総括表」に基づき事務局説明ー

【委員】 図書館は良く使わせてもらっていますが、こんなに事業を行っているとは思いませんでした。市民は、こういう情報はどこで知ったらいいのですか？

【事務局】 広報おびひろや子育てメール、マスコミやコミセンなど公共施設にポスターを掲示しています。

【委員】 認知症のサポーター養成講座や語り手育成講習会などは、図書館とは関係のない内容のようだが、図書館で行うとホッとします。

【委員】 去年の図書館協議会でも聞いたのですが、①雑誌スポンサー制度の状況について？ ②利用登録者数7万人の内訳には近隣の町の間も入っているのか？ ③昨年から貸出冊数が2万冊増えている要因は？

【事務局】 スポンサー制度については、5月1日付けで要項を作成し、HPやチラシで雑誌コーナーのスポンサーを募集し、カバーと排架棚にその団体の宣伝をするというものですが、現在6社で26誌になり、年間約23万円です。今新しく2社控えています。

【事務局】 利用登録者数の内訳ですが、登録者の中の1万5千冊は十勝管内のどこかの町に住んでいる方です。今は十勝管内の方はどこの図書館でも利用できるように協定を結んでいます。

2万冊の増の要因は、職員が頑張っって新たな事業を展開しているおかげだと思いますが、利用者一人当たりの貸出冊数は減ってきています。

【委員】 おたのしみバック絵本が0セットとは利用がないようですが？

【事務局】 学童や、保育園を対象に作ったのですが先生方の需要が無いので、そのセットを利用し、一般の方を対象とした新しい絵本のセット「プチコーン」をつくりました。すると、あっという間に貸出がありました。

【委員】 他にも本をセットにして貸し出ししているということがありましたよね

【事務局】 ぶっくーる便があり、好評です

【委員】 学校からこういうセットを作って欲しいという要望はでないのですか？

【事務局】 先生方に要望を聞いて、朝読書用や職業調用など新たにセットを作ったり、作り変えたりしています。

【委 員】 利用状況の中で宅配 53 件とありますが、これは友の会のハンディキャップが行っているのですか？

【事務局】 はいそうです。本の宅配をボランティアさんをお願いしています。体が不自由で図書館に足を運べない方に、本を宅配してもらっております。

(2) 平成 24 年度予算・事業概要について

—資料 「平成 24 年度 図書館予算一覧」に基づき事務局説明—

【委 員】 ナウマン号をリースする利点はあるのですか？

【事務局】 経費の削減です。
単年度で考えると、リースの方が 1 回で払う経費が少なくて済みます。

【委 員】 職員の研修旅費がたったの 4 万 7 千円しかないのですか？
研修の実態はどうなっているのですか？

【事務局】 他都市への研修は 4 万 7 千円しかありません。
デジタルライブラリアンの研修とビジネス支援の研修旅費です。他に十勝管内公共図書館協議会に各図書館が負担金を出し合い、それに、道からの 7 万 5 千円の補助金をあわせて、道外から年 2 回講師を呼んで研修会と年 4 回の司書部会を行っています。

【委 員】 少ない予算で努力をされていると思います。帯広市図書館も先進地になっているとは思いますが、道外に職員を派遣させて体験させるのは大事だと思います。

【事務局】 昔は、視察研修の旅費があったのですが、今は帯広市全体の旅費が厳しくなっているので・・・

【委 員】 昨年レファレンスの講師に来た先生が言ってましたが、研修に自費で行ってはいけない。自費行くとそれは自分だけのものにしかならない。公費で行くとみんなのものになる。帯広市が行けないと他の町村はもっと行けない。これからいろんな先進的なものを見れるようになれるといいですね。

【委 員】 学校では、子ども達は本を読む機会が増えているし朝の読書はほとんどの学校で行っています。読む冊数も増えているが、課題は家で読む機会をどう増やすかです。乳幼児の時は親子で本を読む機会が多いが、小中学生になった時には読まなくなります。本を通して親子の会話がどれくらいあるか課題です。

理想は、駅や病院などいろんなところに本が置かれ手に触れることができる環境を整えることです。

【委員】 ボランティア活動費で 162,000 円計上されていますが、何につかわれているのですか？宅配ボランティアの交通費は自分もちなのでしょうか？

【事務局】 ボランティアさんの活動保険と布の絵本や本の修理の材料費です。あとは、宅配ボランティアさんのガソリン代は自腹になります。
自腹というのは申しわけないなと思っているのですが・・・

【委員】 うちのボランティアさんも保険に加入はしていますが、それ以外の事は、ボランティアさんの好意にあまえています。
図書館を手伝うことにより、社会に役立っている存在意義を見出し、喜んでいるかたもおおいでになることもたしかです。

(3) その他

事務局より、連絡事項

【委員】 希望ですが、図書館でも十勝の民話の講習会を開催してもらえませんか？昔、十勝の民話を研究しようという会があったのですが・・・図書館で研究したのを発表してくれる人がいませんか？

【事務局】 どなたかご存知の方はいらっしゃいますか？

【委員】 ゲームがどれだけ体に影響を与えるか今の若いお母さんはわからないし、本がどれだけ脳を刺激して良いのか知らないんじゃないですか？こういう講演や講座を取り入れる場所があれば、いかにゲームが体に良くなって、本がどれだけ自分の人生を豊にしてくれるか、わかってくれるきっかけになると思います。

【委員】 先日、語り手講習会の傾聴に参加し、絵本の読み合いをしたのですが、本を読んでもらうととてもいい気分になりました。相手が私にあった絵本を読んでくれて、すごく気持ちよかった。幸せな気分になりました。

閉会